授与機関名　順天堂大学

学位記番号　甲第 1518 号

Reappraising the portoenterostomy procedure according to sound physiologic/anatomic principles enhances postoperative jaundice clearance in biliary atresia

(胆道閉鎖症における葛西原法肝門部空腸吻合術と拡大肝門部空腸吻合術の比較検討)

中村　弘樹（なかむら　ひろき）

博士（医学）

論文審査結果の要旨

本論文では、未だ治療に困難を極める胆道閉鎖症の手術、すなわち肝門部空腸吻合術の吻合部の手術手技について比較検討が行われている。近年、遺残胆管を深く広く切離し、吻合を深い運針で大きく行う拡大肝門部空腸吻合術が世界的に行われている。しかし、最近になり肝門部空腸吻合を考案した葛西森夫先生の肝門部空腸吻合原法と比し、術後成績は満足のいくものではないことが判明してきた。
そこで著者らは、葛西先生自身が行う術中ビデオを再検討、その結果、肝門部の残存微細胆管の損傷を抑えるがごとく吻合の運針が極めて浅く行われていることに気付き、その吻合法を採用した（葛西原法肝門部空腸吻合術）。
そして葛西原法(n=11)と拡大肝門部法(n=13)を、体重、T-bil、手術時日令、全ステロイド投与量、黄疸消失率、黄疸消失までの期間、肝移植率に関して比較・検討した。その結果、葛西原法では、減黄率・移植率ともに有意に良好な成績であることを示した。
葛西先生自身、吻合の運針の深さについては言及しておらず、誌上発表もされていない。肝門部空腸吻合時の運針を浅くかけるこのとの重要性に着目した報告は世界でも初めてであり、現在、世界の多くの施設から注目されている。
よって、本論文は博士（医学）の学位を授与するに値するものと判定した。